～突撃★ドメーヌ最新情報！！～

◆VCN°26　ドメーヌ・ル・ブリゾー

生産地方：ロワール

新着ワイン４種類♪

VdF パタポン 2020（白）

2020 年は、霜がなく房が多かったが、日照りの影響でブドウの果汁が期待していたほど取れなかったので、ブリゾー、キャラクテールを含めすべてのブドウをアッサンブラージュしている。ナタリー曰く、収穫したブドウは粒が小さく、果汁はまるで果皮を搾っているかのようにエキスが凝縮していたとのこと。醸造は、日照りによりブドウの酵母が少なかったため発酵に勢いがなく、発酵が終了するまでに 10 ヶ月を要した。出来上がったワインは瓶詰後に 2g/L の残糖が再発酵したのか、クリスピーな泡を感じる！ブドウの果汁エキスが凝縮感と鉱物的なミネラル感がハンパない！ヴィヴィッドで勢いがあり、余韻にはまるでスキンコンタクトを行ったかのようなミネラルの収斂味を感じる！エッジの効いたミネラル好きにはたまらないワインだが、できればあと数年寝かせて酸もミネラルも落ち着かせてから改めて飲んでみたいワインだ！

VdF コ・テ・クゥール 2020（赤）

2015 年以来 5 年ぶりのリリースとなるコ・テ・クゥール♪2020 年は、日照りの影響でブドウの房自体はどれも小さくコンパクトだったが、コーは収穫の直前に雨が降ったおかげで凝縮したブドウに潤いが戻った。醸造はパタポンと全く同じ方法で仕込んでいるが、雨の降った後に収穫できたこともあり、酒質は非常に滑らかで今飲んで最高に美味しい状態に仕上がっている！通常ロワールのコーは、ワイルドかつ野趣豊かなジビエ料理との相性の良いワインというイメージだが、今回のコ・テ・クゥールは全く別格！凝縮した果実味が艶やかでワイルドさは全くなく、ワインに気品さえ感じる！ナタリーが「自ら仕込んだコーの中で一番の出来！」と自信をもって言うだけの説得力のあるワインだ！

VdF ル・トン・デメ 2020（赤）

樹齢 100 年のピノドニスからつくるトン・デメ！2020 年は、日照りの影響によりブドウの房自体が小さくコンパクトで収量も少なく、ナタリーも収穫する前まではパタポンにアッサンブラージュすることを考えていた。だが、収穫直前に降った雨のおかげでブドウが一気に果汁を溜め込み、辛うじて醸造できる量に達した。醸造は前年と同じくロングマセラシオンを行い、タンニンのエグミが自然と落ちるまで 6 ヶ月漬け込んだ。出来上がったワインは、果実味の艶やかさと胡椒のようなフレーバー、そしてヴィエーユ・ヴィーニュから来るキメの細かいタンニンとの塩梅が超絶妙なまさに The ピノドニスと言えるようなエレガントな味わいに仕上がっている！今飲んでも酒質がエレガントなので十分に美味しいが、こういうポテンシャルのあるワインは、敢えてしばらく寝かせてから飲んでみても面白そうだ！

ミレジム情報　当主ナタリー・ゴビシェールのコメント

2020 年のロワールは、ブドウが早熟だった年。また、極度の水不足が４月から収穫まで続いたが、収穫の途中に雨が降ったこともあり、最終的な収量は例年並み。冬は暖冬だが、雨が多かった。春の初めに一度寒波が降りたが、幸い霜の被害まで至らなかった。ブドウの芽吹きは例年よりも早く、また霜がなかったことから 2018 年のような豊作が期待された。４月～7 月初めまで気候は穏やかで雨が少なく、開花も順調。だが、7 月中旬に入ると乾燥した夏日が連日続き、ブドウの房も水不足のため徐々に小さくなっていった。8 月以降は気温が穏やかで、日中夜の寒暖の差もありブドウの成熟には好条件の天候が続いたが、雨は全く降る気配がなく、水不足のまま収穫に突入した。収穫の途中に雨が降り、雨の前と後のブドウの品質に大きな差が出た。

「ヨシ」のつ・ぶ・や・き

８月下旬、今回日本でリリースするワインの試飲と今年のブドウ状況の確認を兼ねて、ナタリーに会いにロワールへ向かった。彼女に 2021 年のブリゾーのブドウ状況を聞いてみると、やはり霜と病気の被害が大きく減収を予想とのこと。特にシュナンは霜の被害が甚大で 80%減は必至とのことだ。

（写真①）パタポン赤に使用されるシャペルのピノドニス

さっそくブドウの状況を見に畑まで足を運んだ。これはパタポン赤に使用されるシャペルのピノドニスの写真（写真①）。今年は霜と病気の被害が深刻と聞いていた割には、思っていた以上にブドウが付いていた。だが、ナタリー曰く、今年は霜の影響によりブドウの成熟が木によってまちまちで、写真のようにブドウの色付きが始まり成熟に向かうブドウもあれば、まだ色付きの気配さえ感じない未熟なブドウも多く混じっていて、どのタイミングで収穫を行うべきか頭を悩ませているとのこと。これからの天候次第だが、今年は最悪、未熟なブドウも完熟したブドウも同じタイミングに収穫して例外的にパタポンロゼに仕上げることも彼女は考えているようだ。

次に、クリスチャンの永眠するブリゾーのシュナンのル・ブリゾーの畑に移動（写真②）。こちらは、すでに収穫を終えたかの様だった。また、今年はカリウムやマグネシウム不足なのか、写真のように葉の赤く変色したブドウの樹が多く見られた。ナタリー曰く、ル・ブリゾーの畑は林に囲まれた場所にあり空気が停滞しやすいため、霜が降りると真っ先に被害に遭いやすく、また、静かな場所にあるため、ブドウが熟すと動物の被害にも遭いやすいそうだ。「今年は特にブドウだけでなく果物全体が不作の年なので、食料不足の動物たちがブリゾーを収穫する前に全て食べてしまうかもしれない」と彼女は半分あきらめ加減に状況を説明してくれた。

（写真②）ブドウが見当たらない収穫前のシュナンのル・ブリゾーの畑

（写真③）狩猟保護区のル・ブリゾー畑

ドメーヌに戻る前に、彼女がル・ブリゾーの畑に掲げている赤い小さな注意標識に指を差した（写真③）。これは Reserve de chasse（狩猟保護区）という狩猟禁止を示す看板なのだが、彼女の指差す Chasse の下に小さな穴が開いている。これってもしかして…。「そう、これは心無い狩人たちが、この看板に不満を持って銃痕を残したのだと思う。狩猟禁止と言っても、ここは私有地なので、害獣の被害が多い時は狩人に駆除を頼むし、彼らも狩猟シーズンの時は私に許可を請うて狩猟を行う、いわば持ちつ持たれつの関係だった。だが、今はもう昔のようにルールを守る狩人はめっきり少なくなってしまった…」と彼女は畑に散らばるライフルの薬きょうを拾い集めながらフランスの狩猟事情をふと嘆いた。

（2021.8.24.のドメーヌ突撃訪問より）

※弊社ＨＰ資料にて、カラーで鮮明な写真をぜひご覧くださいませ